アジアを見る眼

100

# イエメンものづくし

## モノを通してみる文化と社会

佐藤寛 著

アジア経済研究所

# イエメンものづくし

## モノを通してみる文化と社会

# 目　次

はじめに

**第1章　かぶりモノ**

マシャッダ（ターバン）　4
マシャッダはどこから来るのか　7
あたま布の使い道　9
コウフィーヤ（帽子）　13
イマーマ　16
ベレー帽　20
ベレー帽とイエメン近代史　22

## 第2章　覆うモノ

ヒジャーブ（ベール）　28
髪の毛を覆うモノ　30
顔を覆うモノ　33
身体を覆うモノ　36
バルトーの登場　40
視線の遮断　43
まなざしの力　45
黒子作用＝移動する隔離空間　47
ヒジャーブの遮るもの　51

## 第3章　着モノ

ザンナ（ワンピース）　56
背広とアラブ商人　59

腰巻きとシンドバードの海　63
ジャンビーア　67
ジャンビーアの品質　70
ジャンビーアのアクセサリー　73
ジャンビーアの禁制場所　75

## 第４章　食べモノ

サルタ鍋　80
指先の味覚　83
ホブズ　86
アシード　90
ハニードとミンディー　93
メインは食後に　96
ビスケット　99

## 第5章　噛みモノ＝カート

こぶとり爺さん　104
カートの役割　106
カートの歴史　109
カート消費はなぜ増えたか　112
カート生産はなぜ増えたか　114
カートの弊害　117
カートの効用　119
カートの今後　121

## 第6章　飲みモノ

水　126
コーラ　130
紅茶　134

コーヒー発祥の地　137
コーヒー生産の現状　141

**第7章　乗りモノ**

出稼ぎ土産に４ＷＤ　148
ダバルの威力　150
アブー・ダッバ　153
ダッバーブ　157
長距離バス　161
花嫁行列　164

**第8章　焚きモノ**

タバコ　170
水タバコ　173
香　177

タヌール 182
ガスボンベ 185
のろし 188
ライフル 193

## 第9章　回りモノ

銀 200
装飾品としての銀 203
通貨 208
紙幣 211
曜日市 215
行商人 217
ヒジュラ 222

## 第10章　困りモノ

南北分断　228
内　戦　231
無秩序　235
人質事件（イフティターフ）　238
新しい女性像　243
外国へのあこがれ　246
不良少女　249

## 付　録

主な記念日　254
初出一覧　254
参考文献　255
もっと知りたい人のために　255
あとがき　257
索　引　259

# イエメン全図

ルブ・アル・ハーリー砂漠地帯のサウジアラビアとの国境は未確定

著者紹介
佐藤　寛（さとう ひろし）　1957年生まれ
1981年　東京大学文学部社会学科卒業，アジア経済研究所入所
1985～88年　海外派遣員および在北イエメン（当時）日本大使館専門調査員としてサナアに滞在
1991～92年　国立民族学博物館に出向
1997～99年　海外調査員としてサナア大学イエメン調査研究センターに駐在
現　在　経済協力研究部主任研究員
（主要著書）
『援助の社会的影響』編：アジア経済研究所，1994年
『イエメン――もうひとつのアラビア』著：アジア経済研究所，1994年
『援助と社会の固有要因』編：アジア経済研究所，1995年
『援助研究入門――援助現象への学際的アプローチ』編：アジア経済研究所，1996年
『援助の実施と現地行政』編：アジア経済研究所，1997年
『開発援助とバングラデシュ』編：アジア経済研究所，1998年

イエメンものづくし
――モノを通してみる文化と社会　アジアを見る眼100

2001年3月30日発行©

著　者　佐藤 寛

発行所　日本貿易振興会アジア経済研究所
千葉市美浜区若葉3-2-2　〒261-8545
研究支援部　電 話 043(299)9735(販売)
FAX 043(299)9736(販売)
E-mail : info@ide.go.jp
http : //www.ide.go.jp

印刷所　株式会社　三陽社
カバーデザイン　長峰亜里

落丁，乱丁はお取替え致します　無断転載を禁ず
ISBN 4-258-05100-4 C1233

## 「アジアを見る眼」シリーズ発刊にあたって

地中海から太平洋まで、この広くアジアと呼ばれる地帯には幾十かの国がある。その大部分は第二次世界大戦以後、古い植民地体制から脱して新興の独立国になったものである。世界の人口の半ば以上のものがここにある。これらの新興国はそれぞれの立場に立って、建国創業の仕事に力をつくしている。

その業は果たして障害なく着々と進んでおるか。だれもがこれに対して頭をかしげるであろう。そしてだれもがアジアは「流動的」であるという。

流動的とは何であるか。また何ではないか。いくたみの混みいった自体のなかを、一本の線が生々発展的に縫っているのも流動的である。経済は着々と成長し、政治は一つの体制のなかで徐々に整備されているような場合がそれである。

アジア諸国の大部分については、事態はこのように簡単ではない。もちろん、経済の場合には大きな発展・成長の芽生えがある。しかし、他面においてそれを抑御するものが力づよい。またおよそ発展や成長を考える場合、在来流行の理解によるパターンを以ってするのが果たして正しいか、との疑問もでてくる。さらに政治体制については、イデオロギーの対立、複合民族国家における特殊なナショナリズムに伴う民族や種族間の戦争があって、政治的安定はなかなか期すべくもない。独立国家の幼年期に伴う政治的、御製的未熟もまた考えられるべき大きな原因である。

こういう次第で、アジアが流動的であるとは、一つの混沌を意味するものといいえようか。そしてその上に立っていかなる経済・社会・政治の体制が整いだされるのであろうか。――この意味で二〇世紀後半のアジアは世界における「問題」、いな最も大きな「問題」である。

アジア経済研究所は、まさにこの「問題」の理解に向かって、ひたすら前進をつづけている。われわれの期するところは、まさにそれぞれの国の現実に即した精確な知識を供しよう、そしてこの大きな「問題」について静かなサービスをいたそうとするに尽きる。設立以来すでに七カ年余り、専らそういう道を歩んできたし、今後もそれに変わりはない。このシリーズは、多くの研究や調査の報告書、現地調査を土台として、アジアについての解説書・教養書たることを目標とするものである。

一九六六年三月

アジア経済研究所　東畑精一